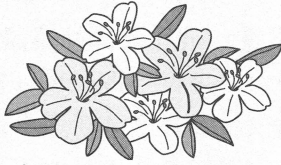


# 群馬つつじ会だより

発行 令和5年9月1日  
群馬県精神障害者家族会連合会  
(群馬つつじ会)  
〒371-0843  
群馬県前橋市新前橋町13-12  
群馬県社会福祉総合センター7F  
TEL 027-289-9647  
FAX 027-289-9648  
E-mail gunmatutuji\_k@ybb.ne.jp

第41号



## 今を見つめて一歩一歩

会長 吉邑 玲子



吉邑会長

行政の会議に出席すると、「共生社会の実現」といとも簡単に言われます。施策が変わったとしても人間の意識はそんなに簡単に変わるものではありません。

それでは、今更ながらになりますが、私たち足元の家族会の活動の3本柱を改めて考えてみます。

- ①「癒しあう」…自分のことを話せ、分かってもらえる場に出会えて、仲間も出来ます。しかし、ベテランの人たちと新しい人たちがうまく融合しているか。役員間でよく話し合い会を運営しているか。いろいろ苦労があると思います。
- ②「学習」…福祉・医療について、制度を学ぶばかりでなく、医療や福祉の専門職の方々との接し方も学ばなければなりません。切実に親亡き後に備えての経済的な対策、支援者の獲得や、関連して兄弟関係も大切な要素です。
- ③「運動する」…みんなねっとでは、4つの提言を出し、今後の取り組むべき問題点を洗い出しています。他の障害に遅れて制度化された精神障害の分野で、理不尽な制度に対しては声を上げなければなりません。皆さん一人一人の切実な問題です。

国のいう地域包括ケアシステムにもみられるように、市町村に事業がおりにきています。地域の単会の力も重要です。

喜ぶべきこととしては、会員減の中で電話相談や「家族の家族による学習会」を通し、入会者もみられ、会員同士の交流が活動に活気をもたらしています。

また、家族会員の中で、発達障害についての質問や疑問があり、この勉強会を持つ予定でいます。

10月には埼玉で全国大会が開催されます。「家族まかせにしない社会」がテーマです。皆さんで学び、行動に結び付けましょう。当事者本人の希望をよく聞き、話し合い、第三者の力も借りて、より自立した実りある人生を迎えようではありませんか。

## 家族会員による家族相談

2017年度から開始した「家族会員による家族相談」も7年目となりました。当初は日時指定の面接相談から開始しましたが、随時面接相談・電話相談へと広がり定着しつつあります。

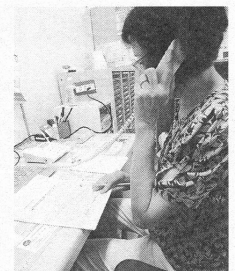
精神障害に関する心配事や悩み・相談は、最も身近にいる家族の方を中心に考えなくてはなりません。身近な経験のある家族によって一緒になって考える機会を活用してください。

### ・面接相談 (土曜日の午後 要予約)

9月2日・10月7日・11月4日・12月2日・1月13日・2月10日・3月2日

### ・電話相談 (毎週水曜日 10時～15時)

予約・電話相談先：つつじ会事務局 (月～水・金) ☎ 027-289-9647



## 第37回 定期総会開催

令和5年5月13日(土)午前11時～



令和5年度総会は群馬県社会福祉総合センターの大ホールにて会員47名が出席して開催されました。吉邑会長の挨拶に続き、県障害政策課齊藤課長、こころの健康センター佐藤所長、県社会福祉協議会川原所長、県精神障害者社会復帰協議会小暮会長から来賓挨拶を受けました。

議長選出を経て、議案を審議し、新役員として常任理事にあざみ会生田目善美さん、理事にのびる会関口房代さん、たけのこ会福島渉さんが選任されました。

閉会后、社会福祉法人アルカディアの廣澤理事より精神障害者援護寮「はばたき」の紹介がありました。

令和5年度群馬県委託事業

**群馬つつじ会リーダー研修会、普及啓発講座** (令和5年7月22日)

**テーマ「聞き、学び、実行する」**

**「令和5年度群馬県の精神保健福祉施策と医療保護入院の一部改正について」**

群馬県障害政策課 課長 **齊藤 猛氏**

1. ①バリアフリーぐんま障害者プラン8は中間見直しの年にあたり、入院後3カ月で退院が7割近い。  
②精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムは現在35市町村が圏域又は市町村単位での「協議の場」を開催済。  
③新規事業として電話相談やSNS相談の設置

2. 医療保護入院の一部改正について

ポイントは、精神障害者の権利擁護を明確化する。非自発的入院制度のあり方に関し、精神疾患の特性等を勘案するとともに、障害者権利条約の実施について検討規定を設けることとなった。



齊藤 猛氏

今回の講演では、“精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム”についての概要説明があった。目指す社会としているが、当方も市町村主催の障害者計画の委員として参加してきたが、検討後の5か年障害者計画立案にあたっては、一般市民からの関心度が極めて低い実情であった。障害者が医療、福祉の支援を受けるところか、未だ孤立したまま出口が見えない。的確な情報提供されることもなく生活を余儀なくされた家族がイメージされるのが現実である。このシステムは市町村の協議会レベルでの段階とのことで、家族会の参加に繋がるまでではなく、家族会としては高齢化、会員の減少等を抱えながらも地域に浸透させていくには、絶えず、家族会の声を行政をはじめ、各方面に発していかなばならない。

(たけのこ会 福島 渉)

**「家族の家族による学習会」を実施して**

副会長 **高橋 典子**



高橋副会長

昨年より実施している学習会の内容の説明と実施状況や成果について改めて報告しました。この学習会は受講者と担当者には好評で、継続して実施しています。

昨年度は、高崎地区等2回、伊勢崎地区で行い、今年度は、太田・館林地区が終わり、沼田地区が実施中です。富岡地区や高崎地区も予定されています。



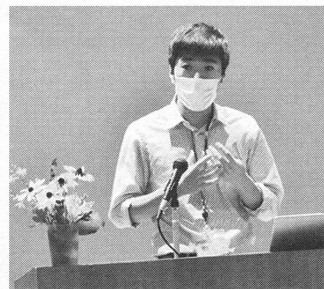
## 群馬つつじ会 普及啓発講座

### 「前橋市におけるひきこもり支援」について

前橋市保健所 保健予防課 こころの健康係 鈴木 智貴氏

講座内容は、医療的治療を必要としない人たちです。ひきこもりは、登校拒否から発する場合も多いです。症状として、社会的参加を回避し、6カ月以上自宅で引きこもる人を指します。家庭内外の様々な要因が考えられます。

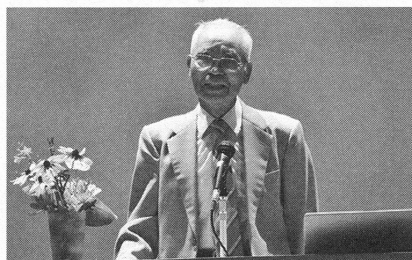
ひきこもり家族の教室は、H23年から始まり、H29年からは家族向けのプログラムとして、CRAFT(コミュニティ強化と家族訓練)を取り入れています。家族間でのコミュニケーションの技法として、あっさりとしらっと、本人を誘う位の距離感での接し方を推奨しています。また、受容と共感で本人の気持ちを理解する大切さを話されました。



鈴木智貴氏

### 「NPO法人山脈の活動とわが子の歩み」について

特定非営利活動法人 山脈 元理事長 笹澤 繁男氏



笹澤繁男氏

20歳で統合失調症を発病された次男の病気の快復を目指した笹澤氏は、他の同様な病気で苦しんでいる方々にも手を差し伸べようと奮闘し、14年後にNPO法人山脈を設立しました。今は自ら立ち上げたグループホームに次男を入所させています。この様な粘り強い取り組みは同じ障害を持つ子の親として目を見張り、その行動力に感嘆させられました。

私も息子の将来について自分に出来ることはないかと、会社を辞めて彼と農業をするか、または共にできる自営業をするかと考えました。しかし、どちらとも諦め、体の許す限り働こうと思い74歳過ぎても働いています。

また理事長の指摘された医療における精神科特例による差別は重大な問題です。特に投薬については、患者に最適な薬を処方すると共にその副作用を留意対処し、また経過観察によりその薬の投与量の調整が重要です。診療時間は適正に確保されるべきで、精神科への差別がなくなることを願っています。

(あざみ会 Y.N)

#### <アンケート結果より>

- ・これまでの活動に頭が下がる。もう少し実体験を聞きたかった。
- ・自分のことは、自分でがんばらないとどうにもならない。大事なことは声を上げたい。
- ・息子と真剣に取り組んできた人にしか語られない言葉でした。改めて息子と向き合おうと思った。
- ・息子はグループホーム入居3年で、周りの支援を受けながら生活。親として在宅が最良と思っていたが、今は安堵している。
- ・息子さんがグループホームに入り、親が訪問しても知らん顔しては、「自立しようとしているのに邪魔しにくる」の語は、本人の気持ちをよく表していて我が家も似た経験をした。

## セミナーを聴いて

めだかの会 三浦香代子

5月13日群馬つつじ会総会後の「県民こころの健康づくりセミナー」において、東京大学勤務の佐々木理恵先生がピアサポーターとして自分の体験を話されました。

特に先生は当事者とリカバリーには仲間が欠かせない。友達なんて作れないと思っていたが、デイケアに行ったら、刺激され当事者にも恵まれた。そして、自分で決めることが大事。自己責任になるし、リカバリーの力を生む。障害の挑戦を体験すると、ちょっとした反発精神がリカバリーの一步ではないかと、等々引き込まれる話でいっぱいでした。

また、当事者が自分の病気の専門職ともいわれ、今後の当事者との関わりを参考にしたいと深く思いました。

## ◎ 家族会紹介 ◎

### あおぞら会

あおぞら会は、平成8年に利根沼田地域の家族の会として発足し、平成11年にあおぞら作業所(共同作業所)を開設しました。

平成18年にNPO法人となり、翌年に沼田市から委託を受け沼田市あおぞら作業所(地域活動支援センターⅢ型)として運営しています。また、平成27年には工房あおぞら(就労継続支援B型事業所)、令和元年には沼田市福祉カフェ ippo(いっぽ)(沼田市よりの委託事業)を開設し、運営に取り組んできました。

今では、施設運営の他、家族学習会や交流会、あおぞら通信の発行などに取り組んでいます。

今年度は群馬つつじ会の支援を得て、7月から「家族による家族学習会」(全5回)を行っています。参加者からは、「病気について理解が十分でないことに気付いた」「気持ちの整理ができた」「本人と二人三脚でがんばりたい」などの声が上がっており、これを機に会員同志の交流も活発になっています。

## 賛助会員を募集しています

群馬県精神障害者家族会連合会では、この会の活動にご賛同いただける一般の方、関係機関の方などへ、賛助会員としての入会を呼び掛けています。

ぜひ当会の活動にご理解いただき、たくさんの方が、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、賛助会費は、一口2,000円からお受けいたしております。お問い合わせは群馬つつじ会事務局までお願いいたします。専用の振込用紙をお送りいたします。

活動内容はホームページをご覧ください。

(<https://gunmatutuji-kai.jimdofree.com>)

## 賛助会費一口2,000円

### 賛助会員のご紹介(順不同・敬称略)

【団体】西毛病院・ステップOne ミサト・華蔵寺クリニック・あぎ美会・障害者サポートセンター プラム・サンピエール病院・ほれほれ・ワークプラザ虹・下横町メンタルクリニック・利根保健生活協同組合・リカバリーカレッジあんなか・大井戸診療所・ももの木・明清会・松本印刷工業・プライム・はたおと・県精神保健福祉士会・こぶしの会・上毛病院・県精神障害者社会復帰協議会・ゆずりは会

【個人】小淵潤一・花岡 操・萬谷高文・福田正人・田島貞子・小川一夫・小倉亮也・伊勢田 堯・浅田 均・藤岡一雄・高橋良子・杉木由美子・浅見隆康

\*ご協力ありがとうございました。

### 2023年度後半の群馬つつじ会の事業

- ・10月14・15日 みんなねっと埼玉全国大会
  - ・11月4日 家族学習会担当者研修会
  - ・11月14日 発達障害についての学習会
  - ・11月25日 「今出来ることを考える4」研修会
  - ・1月30日 研修会
- ※「家族による家族学習会」の開催は未確定

### < 編集後記 >

例年がない暑さが続き、前橋中心に電が降ったりもして驚きました。ようやく秋の草花、夜の虫の鳴き声から少しずつ秋を感じるようになりました。